

<コラム> 万国公法とグローバル・スタンダード

坂本龍馬が常にふところに秘めていたものはピストルと「万国公法」だったと言われるぐらい明治維新时期に活躍した人々の話を読むと「万国公法」という言葉が数多く出てくる。

最近の流行のグローバル・スタンダードの翻訳語として「万国公法」をあててみるのは仲々に面白い。

極論すれば明治維新とは権力に近い人々の間での、アヘン戦争等を例とする欧米の植民地主義への恐怖の中で開国を不可避とする権力争奪戦だったと言えないこともない。その中で「万国公法」というシンボリックな言葉がいかに勝手気儘に利用されたか。

しかし、現実の明治の政治・経済の変革の中で活用された法制は、ドイツの又はフランスのそれであり、日本の国情にあわせて、現実的なものとなっていった。最近の欧でも米でもない「第三の道」と言った考え方は、現実的な変革の方向が見えてきたからかも知れない。